【地域の資源を生かした産業づくりについて】

Ｃ：　大月町では、地域の資源を生かした環境にやさしい、継続可能な産業づくりということで、炭焼きに取り組んでいます。

大月町伝統産業育成協議会を立ち上げ、販路開拓や原木の確保を進めてきました。産業づくりの中でも一番肝心な生産者の育成については、国の地域人材育成事業を活用し、平成２１年度から室戸市木炭振興会で研修生を受け入れていただいています。

その第１期の研修生が無事研修を修了し、大月町に戻って製炭と窯づくり等に取り組んでいます。平成２２年度に派遣した５名の研修生については、現在室戸市で研修を継続中で、その内訳は高卒者が４名、３０代が１名ということで、大月町にとっても大きな意味のある若い世代の雇用にもつながってきています。

いろいろな指導をいただいた甲斐があって、原木の確保と、販路の開拓ということで、生産者にも受け皿としてこれだけのことを構えたというところが示せるようになってきました。

室戸市の木炭振興会では、自分で山を切って、そこから原木を調達して、自分で木を焼いて、自分で売るというように、炭焼きの工程を全て家族操業でやっていますが、大月町の場合は、備長炭生産組合を通じて、木を切る人、焼く人、炭を使った加工品をつくる人、そして、それを販売する人というように分業制にして１つの組織を築いていきたいと考えています。

最後に、取り組みを通じた地域づくりですが、世代を超えた交流を通じて、伝統文化を地域の方々に伝えるということがキーワードになっています。私たちは活動を通じて、町長さんをはじめ、町や組合の方々、それから室戸木炭振興会の親方たちからいろいろなことを学び、伝えていただいています。それを私たちが引き継いで、この仕事を通じて地域の若い世代に伝えていくことができれば、炭焼き産業という枠を越えて地域の人材育成にもつながっていくのではないかと思って、日々活動しています。

知事：　地域アクションプランとしてがんばっていただいていますが、２点教えていただきたいことがあります。まず、備長炭は結構単価が高いものですし、中国が輸出規制したことでこれから全国的に伸びていく分野だと思うので、大いに期待しているんですが、販路開拓に向けてどういうところが今の段階でネックになっていますか？

Ｃ：　どこの分野でも一緒だと思うんですが、やはり生産者価格にならないということですね。室戸の土佐備長炭の歴史の中での卸問屋との長年の付き合いがあり、そのお蔭もあって私たちも最初から土佐備長炭として売ることはできるんですが、卸問屋と生産者側のしがらみもあって、また、向こう（卸問屋）にもリスクもあるので、なかなかこちらの言い値にならないというのは、現実としてあります。

知事：　自分たちで販路開拓するというのは、リスキーなことですか？

Ｃ：　自分たちでもどんどん販路開拓を進めていきたいと思います。ただ、基礎となる受け皿は問屋さんにお願いします。

備長炭は単価がキロ８００円から３００円までさまざまな注文ができるんですが、四国、九州では、単価の安い方の需要が多く、東京の料亭で使われているような単価の高い炭はほとんど需要がありません。そういったところ（単価の高い炭）に関しても、関東、関西の大きな問屋さんにも卸して売っていただいて、あとは四国や九州で自分たちが販路開拓して広げていく努力をしていきたいと思っています。

知事：　冒頭に、産業振興計画の話でも申し上げましたが、我々も販路開拓に大いに取り組んでいきたいと思っています。県庁職員は商売が上手なわけではありませんので、商売が上手な人をたくさん雇ってきて、ネットワークを組んでもらって、売り込み支援に一生懸命取り組もうとしているところなんです。

商品によって全然売り込みのノウハウが違いますし、備長炭独特の売り方のノウハウもあると思いますので、地産外商公社等と連携して、是非一緒に取り組みを進めさせていただければと思います。

私たち、地域アクションプランをできるだけ事業にしていきたいと思っていまして、地域でビジネスとして定着していく。できれば、それぞれの地域で会社を興して、雇用が生まれていくような形になっていくと理想だなと思っているんです。

例えば、本山町の「ばうむ」さんは最初小さい事業から始められて、どんどん大きくなって、県も一緒になって東京のデパートなんかで販路開拓して、伸びあがっていっています。ああいう形で会社として成功していくと、新入社員の雇用につながっていくじゃないですか。その辺りを目指しておられると思いますが、その上でのご苦労とかありますか？

Ｃ：　大月町や土佐清水、（愛媛県）愛南町には、備長炭の原料になるウバメガシやカシがたくさん生えているんですが、せっかく大月で育っている木を、他の地域の人が買い付けにくるので、困るというのはあります。

ただ、これまでそうしてきたということもありますが。

知事：　それは難しいところですね。

分業制での組織化をしていかれるということですが、そちらの方がコストが安く抑えられるということですか？木を切る人も同じ組織でやっていかれて、切り取りから最終的な加工までの一連をやっていく仕組みにされているんですか。

Ｃ：　そうです。

知事：　そういうやり方もあるのかもしれませんね。始めから終わりまで１つの組織の中でやるというのは、地域アクションプランの中でも結構めずらしいですね。
引き続き、よろしくお願いいたします。